



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編集 会報等編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話 0422-55-1231 (代)
URL <http://www.musashino-sc.or.jp/>

206(秋)号 もくじ

- 安全強化月間報告…………… 1
- 武蔵野市シルバー人材センター組織図、職員担当表…………… 2～3
- 設立40周年記念事業について、事務局からのお願い…………… 4
- 私のふるさと…………… 5
- 武蔵野・ぶらり・時空旅…………… 6～7
- ひろば、むさしのSCトピックス、新入会員、お亡くなりになった方、編集後記…………… 8

平成29年7月 安全強化月間活動報告

安全管理委員長 今井宏美

○会員向け自転車無料点検

7月3日センターの玄関において会員向け自転車無料点検が実施され、合計43台の自転車が持ち込まれ点検を受けました。



その結果、タイヤの摩耗やブレーキ等の安全装置に不具合があったものが多く、タイヤの交換など別途費用の掛かるものは、後日個人で直していただくようお願いしました。

○安全パトロールの実施



7月1日より平成29年度全国安全就業月間が実施されるのに伴い、当センターでも7月4～5日に合計5現場の安全パトロールが実施

されました。植木班は全ての現場でヘルメットが着用されており、高木の剪定を行っている現場では安全帯が使用されていました。

緑化班の現場はとて広い緑地帯で、数日間かけて除草しているとのことでした。



○安全就業推進のつどい



7月13日に小金井宮地楽器ホールにおいて、第5地域の安全就業推進のつどいが行われました。小金井警察署の田所様による安全な自転車の乗り方について講演と大塚製薬の本多様による熱中症防止対策について講演がありました。

安全な自転車の乗り方について講演と大塚製薬の本多様による熱中症防止対策について講演がありました。

○植木班・器材点検

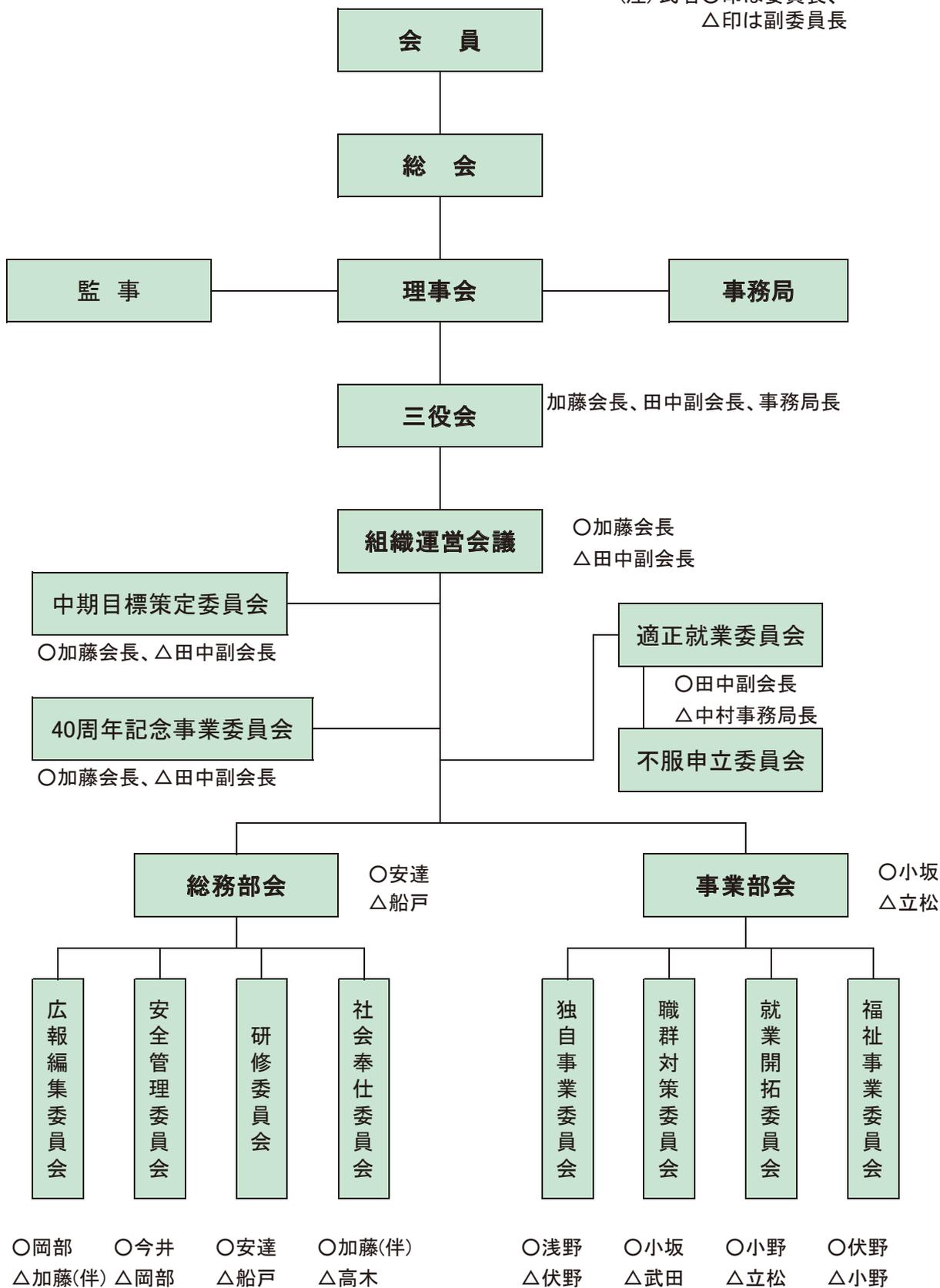
7月26日に植木班による器材の点検が行われました。台帳との突合せに依る数量のチェックも兼ねて、一つずつ丁寧に行われていました。



武蔵野市シルバー人材センター組織図

平成29年10月20日

(注) 氏名○印は委員長、
△印は副委員長



職員担当表

平成29年10月20日現在

班	職名	氏名	業務	部会など	委員会など	地区担当
	事務局長	中村 義明	総括	理事会、組織運営会議、総務部会、事業部会	中期目標作成、適正就業委員会、40周年記念事業実行委員会	
	次長	大村 英太	業務統括	理事会、組織運営会議、総務部会、事業部会	中期目標作成、適正就業委員会、40周年記念事業実行委員会	
①	主事	中村 浩	学校施設開放、学校清掃、浄水場（防火用地含む）、除草（落ち葉掃き含む）、緑化班、中央公園、玉川浄水場清掃		研修委員会	吉祥寺東町、吉祥寺南町、吉祥寺本町・御殿山
	嘱託	下川 保	リサイクルセンター、便利班、パソコン教室、家具転倒防止器具取付（公・民）、海外譲与自転車			
②	主事	永山 ゆう子	桜野小学校児童擁護、桜野小給食、ふれあい訪問収集、五小登下校見守りボランティア、手芸・小物班		社会奉仕委員会、広報委員会	吉祥寺北町、中町、西久保
	嘱託	西川 かおる	植木、ふすま、筆耕、運搬班		広報編集委員会、40周年記念誌編集委員会	
	嘱託	高橋 章	市報配付、広報紙配付			
③	主事	岩田 俊英	労働者派遣事業、新規事業に関すること（就業開拓、就業相談、業務担当との連絡調整）、シルバーパス	理事会、組織運営会議、事業部会	就業開拓委員会、独自事業委員会、職群対策委員会	緑町、八幡町、関前
	嘱託	村井 美保子	屋内外軽作業（すかいらーく）、公共清掃、補習教室、保育園放射能測定関係、未利用地等巡回、吉祥女子登下校指導、Usism			
	嘱託	吉野 三次	事故受付、保険金請求に関すること		安全管理委員会、適正就業委員会、安全基本計画策定	
④	主事	中井 隆之	民間清掃、家事支援（公共）、子育て支援（公共）	総務部会	福祉事業委員会	境、境南町、桜堤
	嘱託	井田 薫	家事支援（民間）、子育て支援（民間）			
	臨時職員	塩澤 由紀子				

事務局からのお願い

いつも武蔵野市シルバーセンター事業に、ご理解ご協力いただきありがとうございます。
スムーズな事務局運営や、就業しやすい環境を整えるために、下記について今一度ご確認をお願いします。
また、就業によっては異なる場合がありますが、基本的なこととご理解をお願いします。

◎武蔵野市シルバー人材センターの電話番号は…

■0422-55-1231

営業時間は平日午前8時30分から午後5時15分まで
土日、国民の祝日、年末年始はお休みです
電話をかける際は、
「会員の〇〇です」と最初にお伝えください

◎センターから仕事を引き受けたら…

■担当職員と、仕事内容の打ち合わせを充分にお願いします

■約束した日や時間を変更する場合は、担当職員に連絡をお願いします

■仕事にかかる前に、必ず担当職員と…

・仕事の進め方 ・何をどうするのか
などを充分に確認し、特にやってはならないことは何か、
事前にきちんと確認しましょう

■引き受けた仕事は、責任を持って誠実に、発注者にご満足いただける良い仕事を提供しましょう

◎就業報告書は…

■消せるボールペンでの記入は止めましょう

■就業の都度、正確に記入しましょう

■内容を訂正する場合は、ホワイトペンで消さずに二本線で消して、自分で訂正印を押して提出しましょう

■必ず発注者の確認印をもらいましょう

■就業報告書は月末締めです、翌月の第2営業日の午前中までに事務局に提出をお願いします

◎体調や就業で不安や心配ごとがある場合は、事務局職員や担当職員に何でもご相談ください



「健康フェスタ」と「設立40周年式典」についてのお知らせ

平成30年1月に、武蔵野市シルバー人材センターの設立40周年を迎えます。

昨年度は、従来のセンターフェアに替わる「健康フェスタ」と「会員作品展」が、平成29年の1月と2月に実施され、会員の皆さま及び会員以外の多くの参加で盛大な会が実施できました。会員の皆さまのご協力に感謝いたします。さて、来年は昭和53年1月に「武蔵野市高齢者事業団」として発足以来、40年を迎えます。そこで、健康フェスタの形を変え、右記の要領で「設立40周年記念式典」を計画していますので、概要をお知らせいたします。スケジュールを調整いただき、ふるってのご参加をお待ちしています。

1. 日 時：平成30年2月9日（金）午後1時30分～4時
 2. 場 所：JR武蔵境駅北口スイングホール
 3. 内 容：式典、健康講話、椅子に座ってできる健康体操、健康漫才（林家ライス・カレー子さんを予定）
- 以上を実行委員会を立ち上げて計画しています。

正式なご案内・参加者募集は来年の1月になりますが、会員の皆さま以外の方々にも多くご参加いただき、公益法人としての地域貢献もアピールしてまいります。また、実行委員会では、記念誌の発行や記念品の作成なども検討中です。ご要望・ご提案などがありましたら、ぜひ各理事または事務局までお知らせください。

お詫びと訂正

平成28年4月20日発行の絆第200号に掲載しました『派遣事業について～Q&Aで疑問を解決～』につきまして、下記の訂正がございます。お詫びするとともに、訂正いたします。

Q6 現在、就業中ですが、合わせて派遣もできますか。

A6 誤× →「派遣」と「請負・委任」の兼任は、就業規則上できないとされています。「雇用」という意味では、「派遣」に専念していただく必要があります。健康管理上も就業日数・時間が多くなることは好ましくありません。ただし、市報配付やふれあい収集など、一部例外的に兼業ができるものがあります。

正○ →「派遣」と「請負・委任」の兼業は可能です。また、派遣での就業時間が20時間を超えないのであれば、請負での就業時間に関しては週20時間までは就業可能ということになります。

私のふるさと

—— 第15回 新潟県新潟市 ——

吉祥寺南町

丹羽 正利 会員



★丹羽さんは新潟市で生まれ育った。新潟市は明治22年（1889）の市制施行によって設置された市であり、日本でもっとも古い市のひとつで港町として発展してきた。江戸時代から明治期までは北前船の寄港地として、昭和初期から終戦までは満州航路の拠点として栄え、現在でも日本海側では唯一の中核国際港湾である。

●私は昭和21年3月27日、新潟市中央区中大畑町（現・新潟市中央区中大畑町）で生まれました。中央区は文字通り新潟市の中心で県庁や市役所、裁判所などの諸官庁や繁華街が集中しているところですが、私が生まれたのはその中心から北に寄った日本海に近い住宅地でした。父は建具屋を営んでいて、自分も建具職人でしたが、私が物ごころついた時には家具会社のサラリーマンになっていました。母は専業主婦で上に兄が二人、下に妹が二人います。兄たちは戦中の生まれですが、戦火激しい時に兄が二人生まれたというのは、父は体が小さかったので兵役免除になったお蔭でした（笑）。家から北に10分も歩くと、寄居浜という長い砂浜がありました。「海は荒海、むこうは佐渡よ」と歌った北原白秋作詞の『砂山』の舞台です。この浜の西側には「ふるさとを語るこなし」と刻まれた坂口安吾の石碑が建っています。安吾は隣の西大畑町の生まれでした。

★新潟市は大きな都市である。雪深い田舎の山里ではない。現在でも日本海側で政令指定都市は新潟市しかない。日本海側最大の町の住宅地で生まれた丹羽少年はどんな遊びをしていたのだろう。

●小学生時代はめんこやビー玉で遊びました。これは東京の子と同じでしょう。浜辺で相撲を取ったりもしました。冬は竹スキーです。竹藪から竹を伐り出してきてスキーを作り、バス道路の坂で滑りました。バスの運行の合間の遊びでした。

★新潟県でも海沿いの平地では雪は多くない。それでも丹羽さんの子供時代は、竹スキーで遊べるくらいは降ったし、中学校時代までは屋根の雪下ろしをしたこともあった。

高校時代になると寄居浜にテトラポッドが設置され、その中でワタリガニが釣れた。タコ糸に石

を結んでおもり錘とし、そこにアマエビのむき身をつけてテトラポッドの隙間に落とさにし込むとワタリガニが抱きついてきたという。

新潟市の少年に凧揚げという遊びはなかった。冬は日本海を渡って吹いてくる季節風が強すぎて、凧が上げられなかったからである。坂口安吾は自伝的エッセイ『石の思い』でこう書いている。「私のふるさとの家は空と、海と、砂と、松林であった。そして吹く風であり、風の音であった」。まさにそんな町だったのだ。

★子供時代は何を食べていたのだろう。

●おかずは塩鮭と漬物が定番でした。新潟県には鮭が遡上する川が何本もあり、鮭は昔から普通に食べられていました。県北部の年越魚は鮭でしたが、上越地方はぶり鰯で新潟市では両方食べていました。雑煮は醤油味で四角い餅と鮭が入っていましたが、正月には必ず鰯の刺身が食卓に並びました。

★学校生活についてを聞いておこう。

●小学校は新潟小学校、中学は寄居中学校で歩いて通いました。ひとつ申せば、昭和52年に北朝鮮に拉致された横田めぐみさんは小・中学校の後輩になります。拉致現場は、私の生家から徒歩12分くらいの路上でした。高校は県立新潟高校へ自転車通学でした。中高時代は体が弱かったせいもあって部活動はしていません。大学は新潟大学人文学部経済学科へ進みました。家から近かったので徒歩通学です。小学校から大学まで通学には交通費不要の親孝行な子供でした。

●大学卒業後に上京しコンピューター会社のSEを3年したあとボイラー会社に転職、そこで定年まで勤めました。定年退職後は体調不良で47kgしかなかった体重が、シルバーに入り、除草班の仕事をするようになってから、55kgに増え健康になりました。

（聞き手

編集部 遠藤）



右から2番目、小学校2年生の時

武蔵野・ぶらり・時空旅

13

吉祥寺北町 下谷 一廣

平成26年から足掛け4年、この「武蔵野・ぶらり・時空旅」のコラムを書くため、私なりに武蔵野の歴史やこの地で起きた様々な出来ごとについて資料を集めたり読んだりしてきたが、明治2年11月に始まった「御門訴事件」に関するいくつかの古文書や資料を読むたびに、なぜこれ程理不尽なことがまかり通ったのか事件から140年以上経った今でも怒りを覚える。享保の時代から武蔵野新田を開墾してきた小前達こまえの事件前後の気持ちを察すると暗澹たる気分になる。(小前；本百姓ではあるが、特別な権利・家格を持たない百姓、小作人層をさす場合もある)

今の時代これほど非情で悲惨なことは起きないとは思うものの、共謀罪法案の成立など少し雲行きがあやしくなってきた。このような時代だからこそ、事件を風化させずせめて武蔵野にお住いの皆様には記憶にとどめていただきたいと思い明治初頭に起きた御門訴事件を取り上げました。

☆御門訴事件の経過

明治2年11月5日：品川県知事古賀一平、飢饉に備えた社倉制度を県下の村々に命令。持ち高5石以上は1石に付き米2升、5石以下は3等に分けて出穀（実際は貨幣での納入）武蔵野新田13カ村の小前百姓らが命令に反発（後田無新田は脱落）
同年12月初旬：村役人らは品川県に対して、古

田と新田を区別すること、持ち高5石以下の難澁者は年貢（税）を免除することなど嘆願。以後、数度にわたり県役人と村役人とが交渉。村々は、関野新田（小金井市）の真藏院（川崎平右衛門の供養塔がある）にて寄合開催。

同年12月26日：県知事、嘆願の中心人物である関前新田名主井口忠左衛門らを召喚し、改めて命令通りの出穀を命ずる。承服しない忠左衛門らは帰村することを許されず、軟禁される。

同年12月28日：小前百姓らは田無村へ集合し品川県庁（現・日本橋浜町）へ向け出発。新宿淀橋辺りで県役人らの説諭を受け引き返す（門訴未遂）
明治3年1月10日：忠左衛門ら宿預けを解かれ帰村途中、小前百姓らは複数経路から品川県庁へ向かう。忠左衛門らは引き止めに動くが夜半にある一団が県庁に到達し門訴。県は数十名を逮捕。

同年1月17日：忠左衛門ら尋問。品川県知事古賀一平「仮へ十二カ新田ヲ古ノ原野ニナス共、県ノ規則ヲ決行セザレバ不相成あいならず」と発言、忠左衛門ら牢屋入り。

同年1月18日：小前百姓らに向けて告諭の高札立つ。(民を見下した高圧的な高札)

同年1月20日：関野新田名主清十郎倅邦藏、弾正台へ箱訴はこそ（江戸時代、8代将軍徳川吉宗が、庶民からの直訴を受けるために設けた制度）。

同年2月18日：忠左衛門病死（享年59）（過酷な取り調べと入牢時の寒さが原因）

同年5月：弾正台による品川県知事ら尋問

明治4年11月：品川県廃止。社倉制度頓挫。

明治7年～13年：村々、社倉金返還運動を展開

こうして事実関係だけを時系列で列举していく



昭和初期の真藏院（真藏院提供）
川崎平右衛門の供養塔



御門訴事件犠牲者招魂塔
西東京市・武蔵野市共同墓地

だけでは御門訴事件の本質が見えてこないのが、事件の裏に潜むとんでもない理不尽さについて順を追って解き明かしていきたい。その前にこの事件の対立の構図は、品川県知事及びその部下の役人对武蔵野新田12カ村の名主を含む小前百姓である。**武蔵野新田**とは享保の時代に開拓が始まり元文元年(1736)に検地を受けた村々であり、現在の武蔵野市でいえば関前新田がそれにあたる。他は現在の小平市、小金井市、国分寺市などである。新田に対して寛文4年(1664)に検地された吉祥寺村、西窪村、境村などは古田といわれた。前置きはこれぐらいにして本題に戻る。悲劇は失政から始まった。

品川県権知事に就任したばかりの古賀一平が、明治2年11月に「社倉積立金制度」なるものを県下の村々に命令した。飢饉に備えて新たな税金を持ち高にに応じて徴収するというものであった。“飢饉に備える”と名目はもっともらしいが時宜をわきまえない無思慮な制度であった。国内での戦乱が終わったばかりであり、幕末から明治初年にかけて大きな地震や天候不順による凶作が3年も続き全国的に食糧不足であった。さらに土地のやせた武蔵野新田の生産性の低さという特殊事情もあり、ここの小前百姓は飢えに喘いでいたのである。

「武蔵野・ぶらり・時空旅」VOL7で武蔵野新田のことを取り上げているが、享保の時代にも凶



武蔵野の子供達に事件を語り継ぐために紙芝居にした一部



むさしの紙芝居一座(提供)
(炎の村 御門訴事件)

作が続き百姓が塗炭の苦しみに喘いでいるときに、大岡越前守が起用したのがスーパー役人**川崎平右衛門**である。彼は自ら足を運んで村々の百姓を訪ね歩きその実情に合わせた政策を次々に打ち出し危機を救ったのである。この地に適した社倉制度を根付かせたのも平右衛門である。

先祖の代が体験した人情味ある施策に比べれば品川県知事の命令は実情を知らず、調べもせず下された非情な制度であり、新田の百姓たちは「はなはだ迷惑である」とこの命令に反発した。

その後の経緯は上記の通りであるが、12カ村の嘆願は県側が言を左右にして受け入れられず。いったん双方の妥協案がまとまったかに見えたが、県側が約束事を反故とし、年の瀬も迫った12月26日には嘆願の中心人物である関前新田名主忠左衛門らを召喚して軟禁するといった強硬手段をとった。

明治3年1月10日、数百人の農民が列を作り、品川県庁前に到達、門の中から扉が開きだまし討ちのように取り囲まれ袋の鼠状態で50人以上が捕らえられた。何人もの名主や百姓が牢死し、杖や鞭による前時代的な拷問を受けた者も多数いたという。事件の始まりから順を追って検証していくと“**人民不在・信義なき政治**”が見えてくる。思うに維新政府が高級役人として起用した下級藩士の中には役人としての適性を欠く人物もいたようである。上記した1月17日の品川県知事の発言「たとえ12カ新田を古の原野になす共、県の規則を執行しなければならない」を見ても人間性が欠如しているとしか思えない。古賀一平はその後地元の佐賀に戻り参事(知事)として県政を推進したが県民の反感を買い免官となったという。最終的にはこの「社倉金積立制度」は廃止となり徴収された金額の一部は村に返還されることとなったが払った代償はあまりにも大きかったと言えよう。

まだまだ書きたいことが山ほどありますが紙幅が尽きてしまいました。

*参考文献:「御門訴事件」飯畑幸男著、多摩郡関前新田名主井口忠左衛門文書「多摩のあゆみ」135、武蔵野市史続資料編1、小平に残る 御門訴事件関係史料集、

ひろば

境南町 もみじ山公園

ムーバス「もみじ山公園」停留所を南に行くと、すぐ右側が公園です。

武蔵野市には112の市立の都市公園があり、もみじ山公園は15番目に開園されたとあり驚き昔から親しまれた公園だったのです。

境南町三丁目の一角にある公園は、名前の通りもみじの木が30本以上もあり、さるすべりの木なども季節を語ってくれます。三月頃和らぐ陽光の下、芽吹きが始まります。葉は鮮やかな黄緑で、春のおとずれを知らせます。真夏には濃緑色の葉が影をつくり激光を避けてくれます。野鳥を呼び昆虫の棲む自然豊かなもみじ山公園です。夏休みのラジオ体操には虫取り網を持ち、虫を追いかけながら参加する子どももいます。秋には色鮮やかなもみじが美しい、ゆっくりと日ごとに変化し、自慢の景色に心が奪われます。

もみじ山公園の一日は、私たちのラジオ体操から始まり、保育園の幼児、昼からは学校から帰ってからの子どもたちで賑わっています。公園は朝から夜遅くまで、大勢の方が利用しています。

ラジオ体操前にごみを拾っていますが、お弁当の食べ残し、ビールの空き缶、ペットボトルなど、休日の翌日にはたくさん捨てられているのです。特に犬の糞は嫌ですね。ある日、公園のベンチの片隅にはりぼて（張子）の可愛いお地蔵さまが置かれていました。

こんな所に、お地蔵さま！どうして？

翌日に公園のお地蔵さまには、可愛い小さなタンポポが供えられてありました。今日も白い小さな花がきれいに並べ飾ってあり、毎日園児が手を合わせているようです。泥団子も四つ、五つと備えてあり、大きいのが小さいのが形良く作られ、年長さんも参加したのかな！雨の降った日には雑誌が頭に乘せられ笠地蔵になっていました、もみじ山のお地蔵さま、いつまでもみんなに愛されるといいね。

(S.E.)

むさしのSCTピックス

7月は安全就業強化月間のため、安全に関する行事が多くありました。(P1参照)

事故が起きると、自分自身が痛い思いをするだけでなく、相手方、自分のご家族まで不幸になってしまいます。

日頃から安全就業に努め、明るく元気に就業しましょう。

7月28日(金) 新任安全リーダー研修(国分寺労政会館にて、今井安全管理委員長が参加)

8月9日(水) 転倒予防勉強会(しごと財団にて、矢田安全管理委員が参加)

8月22日(火) シルバーパス事業の会員向け説明会(センターホールにて、25名が参加)

編集後記

今回初めての編集という仕事に携わる事となりどうしたものかと頭を抱えていた夏も、四十年振りの長雨からツクツクボウシの鳴き声と共に猛暑に戻り、夏休みの宿題を急がすかの声に聞こえて来ました。分からないままの私がこうして後記を書く処まで出来ましたのも経験豊富な委員の方々のお力と感謝しております。

そして出来上がりました今回の「絆」を多くの方々目に頂くことを願っております。(正)